

短期留学が大学生に与える影響

——工学院大学のニュージーランド語学研修のケース——

山 田 朋 美

The Impact of Short-term Study Abroad Programs on University Students:

A Case Study of the New Zealand Language
Training Course Offered by Kogakuin University

YAMADA Tomomi

0. 概要

工学院大学では在学生の英語力および異文化コミュニケーション能力を高めるため、さまざまな留学プログラムを実施している。2018年度からはニュージーランドにおいて語学研修を行ってきた。参加学生にアンケートをした結果、2022年度に実施された語学研修は英語力はもちろんのこと、異文化理解、そして日本に対する理解を深める効果があったと捉えることが可能であることがわかった。

1. はじめに

近年のグローバル化に対応するため、英語によるコミュニケーション能力や異文化理解能力の必要性が広く認識されている。そして、それらを身につけるために海外留学が有効であることは日本においてもしばしば指摘されている¹。工学院大学でも、英語力およびコミュニケーション能力の向上と異文化理解のために、1990年代から語学研修を実施している。本稿では、本学の語学研修プログラムが参加者の英語力や異文化理解に対してどのような影響を与えたのかを考察するための準備段階として、2022年度に実施されたニュージーランド語学研修の参加者を対象に実施したアンケートの調査結果について報告する。

2. 語学研修概要

まず、2022 年度に工学院大学で実施された語学研修の概要について説明する。研修は 2022 年 2 月 25 日から 3 月 18 日までの 22 日間、ニュージーランドのオークランドで実施され、24 名の学生がこれに参加した。参加学年は、1 年生 8 名、2 年生 12 名、3 年生 2 名、4 年生 2 名であった。また参加者の内 1 名はアジアからの留学生であった。

2-1 事前授業

ニュージーランド出発の約 2 週間前に対面で事前授業が実施された。この授業は国際キャリア科の教員が担当し、ニュージーランドの歴史に関する講義や、現地フィールドワークの説明、参加にあたっての目標設定に関する指導が行われた。加えて、担当教員がニュージーランドを理解するために設けた多岐に渡るテーマ（地理と気候、火山・温泉・地震、政治、女性首相、エコツーリズム、文学、映画、スポーツ、宗教、教育、料理等）の中から、参加者が関心を持ったものを一つ選び、それについて調べプレゼンテーションを行うことを通じて、ニュージーランドについての理解を深めると同時に、参加者が主体的に滞在先について学ぶことの重要性が指導された。

2-2 現地研修

現地では英語の習得およびニュージーランド文化の理解を重視するプログラムが実施された。英語の習得に関しては、参加者は現地語学学校において週 5 日英語の授業を受講した。滞在形式はホームステイで、学んだ英語の実践の他、異文化交流の経験を積む場が設けられた。さらに、ニュージーランドに対する理解を深めるために、国際キャリア科教員の引率の下、オークランド美術館（Auckland Art Gallery）、ニュージーランド海洋博物館（New Zealand Maritime Museum）、ホリー・トリニティ大聖堂（Holy Trinity Cathedral）および聖メアリー教会（St Mary's Church）、オークランド博物館（Auckland War Memorial Museum）でフィールドワークが行われた。フィールドワークでは、参加者は 4 名ずつグループに分かれ、グループのメンバーと対話しながら展示物を見学したり、展示物に関するクイズに挑戦したりした。参加者はこのフィールドワークを通して、ニュージーランドの歴史や社会、文化、宗教を学ぶと同時に、自分の考えを言語化しわかりやすく説明したり、自分とは異なる見解に触れる機会を重ねたりするなど、チームワークやコミュニケーション能力を養う経験をした。

3. 調査方法

本調査は、語学研修が参加学生に与える影響を把握するために、語学研修先のニュージー

ランドに出発する前および帰国後に参加者に対して実施された。調査方法は、Google Forms を用いたアンケートを実施し、Google Forms にアクセスするための URL は、本学の LMS で参加者に通知した。回答期間は、出発前アンケートに関しては 2023 年 2 月 22 日から 25 日まで、帰国後アンケートは 2023 年 3 月 19 日から 4 月 8 日までとした。調査対象は、語学研修に参加する学生 24 名とし、出発前のアンケートに対しては 17 名（参加者の約 70%）から、帰国後のアンケートに対しては 20 名（参加者の約 83%）から回答があった。調査項目は出発前アンケートが 41 項目（選択式 9 問、自由回答式 32 問）、帰国後アンケートが 26 項目（選択式 8 問、自由回答式 18 問）の質問から構成されている。なお、調査項目に関しては資料に掲載した。

4. アンケート結果分析

4-1 プログラムの参加者層

まず、語学研修の参加者層についてアンケートから明らかになったことを述べる。図 1 は参加者の海外渡航経験の有無を示したものである。回答者の 82.4%（14 名）が海外渡航経験が「ある」と回答し、「ない」と答えたのは 17.6%（3 名）であった。また海外渡航経験が「ある」と回答した学生に対し、渡航理由を尋ねた結果をまとめたものが図 2 である。回答者の内 10 名が「観光」と答えた一方で、「親の仕事」や「留学」での海外滞在経験がある学生もいた。

海外滞在期間については、図 3 が示す通り回答者の 85.7% が「3 ヶ月未満」であり、「1 年以上」の長期滞在経験のある学生は 14.3% であった。また、渡航経験のある国はアジアが 9 名と最も多く、次いで北米（グアムを含む）が 6 名、オセアニアが 3 名、ヨーロッパが 2 名であった（図 4）。なお、語学研修の実施先であったニュージーランドに滞在経験のある学生はおらず、全員が初渡航であった。

語学研修参加の動機については、図 5 で示す通り、「英語力」の向上を挙げた学生が最も多かった。次いで、ニュージーランドの文化や社会への関心、留学や海外渡航、異文化体験へ

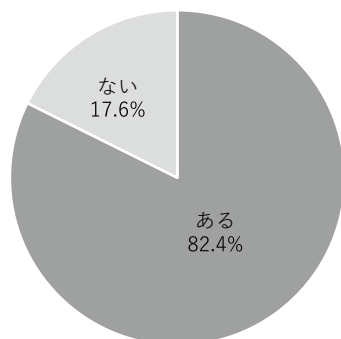


図 1 語学研修参加者の海外渡航経験の有無

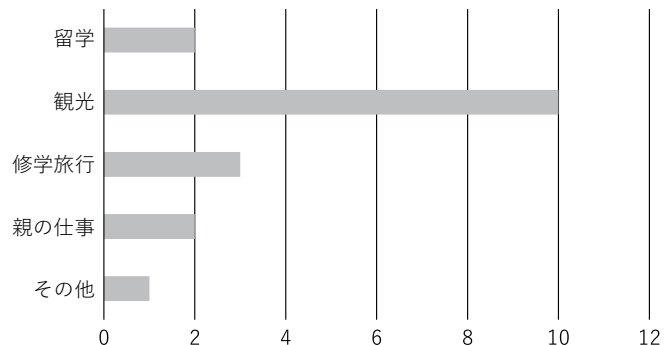


図 2 海外渡航経験者の渡航目的（複数回答可）

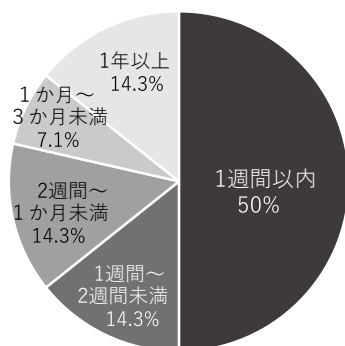


図 3 海外滞在期間

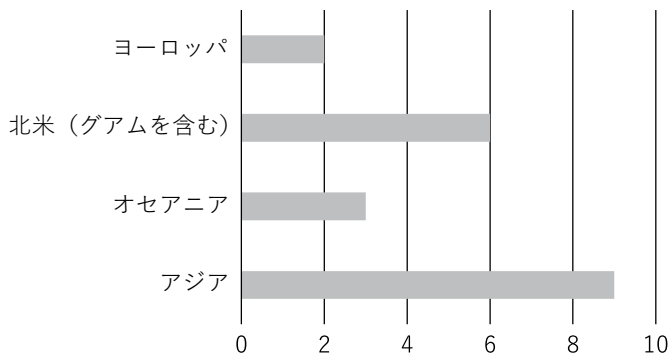


図 4 渡航経験のある地域

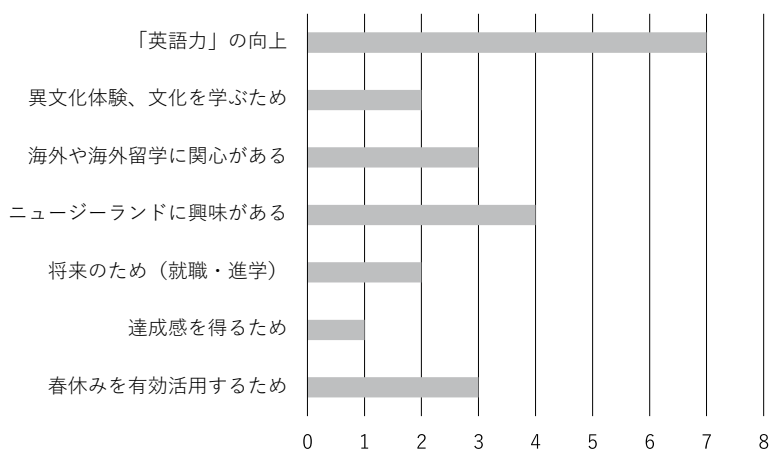


図 5 語学研修に参加した動機

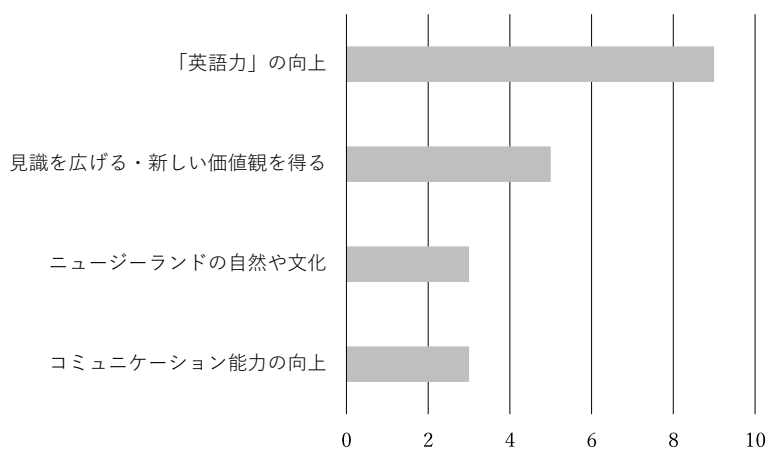


図 6 語学研修に期待すること

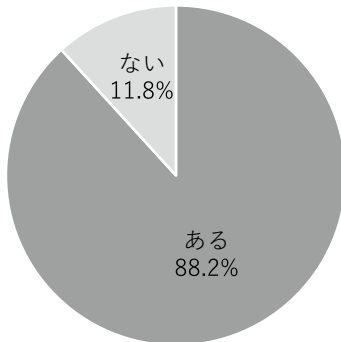


図7 語学研修参加にあたって不安に思っていること

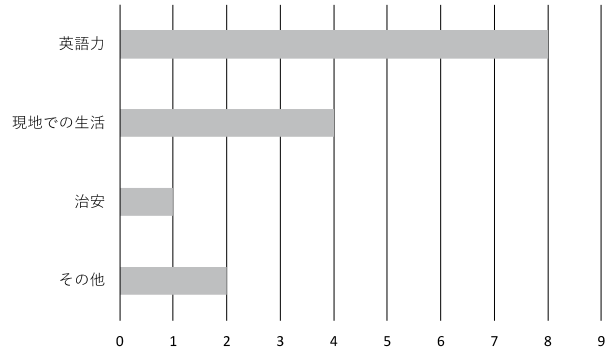


図8 語学研修参加にあたって不安に感じていること

の関心が続いた。これらは自分とは異なる文化と触れることを目的とする点では同じカテゴリーに分類することができる。他方で、就職や進学のためという将来を見据えた回答をした学生は2名となった。語学研修に期待することについては、やはり「英語力」の向上を挙げた学生が最も多く9名であった。次いで、見識や価値観を広げること、ニュージーランドの自然や文化を体験すること、コミュニケーション能力の向上への期待が見られた(図6)。

さらに、参加にあたって不安に感じることを尋ねたところ、全体の88.2%(15名)の学生が「ある」と回答した(図7)。そして、不安を感じている参加者の53.3%(8名)が英語を使っのコミュニケーションをその理由として挙げた一方、現地の生活に馴染めるかどうかを挙げた学生は、回答者の26.6%(4名)であった。

これからは、今回の語学研修の参加者の多くが、既に海外滞在経験があったり、もともと海外に関心を持っており、英語力の向上だけではなく異文化交流や視野を広げることが目的に参加したことがわかる。また、図7および図8が示すように、参加に当たり語学力に不安を感じる学生が多い一方で、海外渡航経験者が多かったためか海外での生活自体に不安を感じた学生はさほど多くはなかったことが伺える。

4-2 「英語力」に及ぼした影響

この語学研修が参加学生に及ぼした影響を「英語力」の視点から見ていく。図9は、学生が語学学校の授業で最も勉強になったことを示したものである。回答者の70%(14名)が英語と回答し、その中では発音やアクセントを挙げた学生が最も多く、リスニング、スピーキング、語彙、文法が続いた。

また、この語学研修によって自分の英語力が伸びたと感じる参加者も多かった。図10は、帰国後のアンケートで、参加者が語学研修に参加したことで自分の英語力がどれくらい伸びたと思うかを10段階(1が「伸びなかった」、10が「大いに伸びた」)で示した結果である。回答者の半数が「8」以上と回答し、その理由としてはスピーキング能力に言及した参加者が

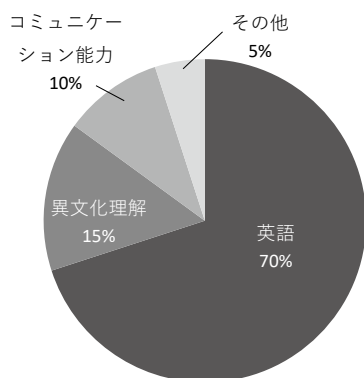


図 9 現地語学学校で最も勉強になったこと

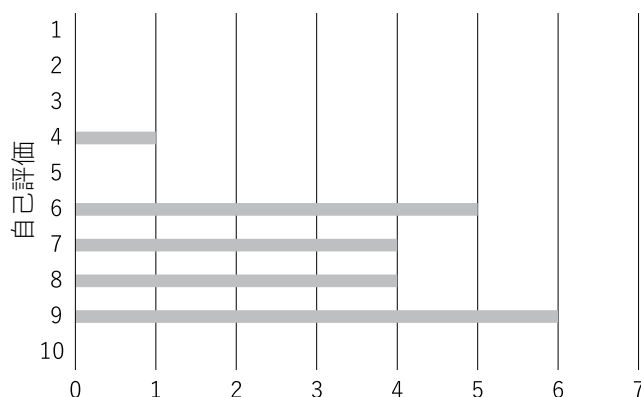


図 10 語学研修による「英語力」の伸び

最も多く 9 名であった。しかし、その内訳を見ると、6 名は語学研修参加前よりも向上したと肯定的に評価する一方で、3 名は十分に身に付かなかったという評価であった。スピーキング能力が向上したと評価している参加者のうち 3 名は、文法をより意識して話せるようになった点を評価していた。次に多かったのが、リスニング能力が参加前よりも伸びたとの回答で 6 名であった。また、発音やアクセントが上達した、語彙力が身についたという理由も挙げられた。また、具体的に伸びたと感じるスキル以外に、参加前よりも英語を話すことに自信が持てるようになったと評価する学生もいた。なお、これらはあくまで参加学生の自己評価であり、英語の伸びを試験等で測ったものではない。ただ、参加学生の多くが語学研修前と比べ、特にスピーキングとリスニングにおいて英語力の伸びを実感していることがわかった。

4-3 異文化理解に及ぼす影響

次に、この語学研修が参加学生に及ぼした影響を異文化理解の視点から見ていく。ニュージーランド滞在を通し、現地の社会や人々、文化に対する理解がどのように深まったかを考察するために、出発前のアンケートでニュージーランドとその社会・文化・人々に対するイメージを尋ねた。その結果は表 1 で示されている通りである。ニュージーランドと聞いてイメージするものとして最も多く挙げられたのは「羊」であった。続いて「豊かな自然」や「温暖な気候」が挙げられた。また社会に対するイメージとしては、「女性の社会進出が続いている」、「治安がいい」が最も多かった。文化については「マオリ文化」が最多で、その次が「イギリス文化の影響」（ラグビーも含む）であった。「ニュージーランド人」については「優しい・温厚」が最も多く、「多人種・多国籍」、「背が高い」がそれに続いた。また、これらのイメージ形成の情報源を尋ねたところ、テレビを挙げた参加者が最も多く 7 名、次いでインターネットと事前授業が各 6 名、本やガイドブックが 4 名であった（図 11）。

表1 【語学研修参加前】ニュージーランドに対するイメージ

| 項目 | 人数 | 回答 |
|------------|----|---|
| ニュージーランド | 10 | 羊 |
| | 4 | 自然が豊か |
| | 3 | 温暖な気候 |
| | 3 | 治安がいい／平和 |
| | 2 | ラグビー |
| | 各1 | 島国／独特の文化／火山／ロードオブザリングの撮影地／他 |
| ニュージーランド社会 | 6 | 女性の社会進出が進んでいる |
| | 6 | 治安がいい／平和 |
| | 各1 | 酪農が盛ん／テクノロジーが最先端／福祉が充実／環境問題に取り組んでいる／平等／日本より生活しやすい |
| ニュージーランド文化 | 6 | マオリ／先住民がいる |
| | 5 | イギリス文化に近い／ラグビー |
| | 各1 | 日本に似ているところもある／伝統を重んじる／島国文化／自然を大切にする／差別が少ない／他 |
| ニュージーランド人 | 5 | 優しい／温厚 |
| | 3 | 背が高い |
| | 3 | 様々な人種の人がいる／多国籍 |
| | 2 | マオリ／先住民民族がいる |
| | 2 | 明るい／外交的 |
| | 各1 | 愛国心が強い／スポーツが強い／お酒に強い／白人が多い／他 |

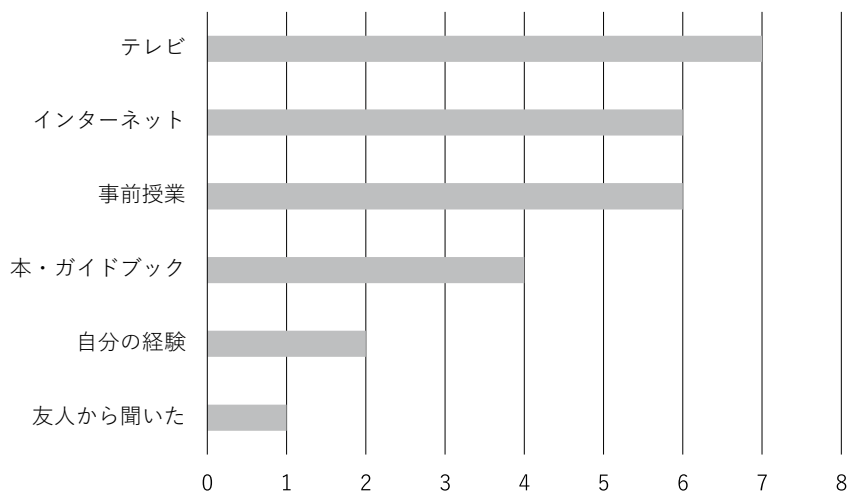


図11 ニュージーランドイメージの情報源

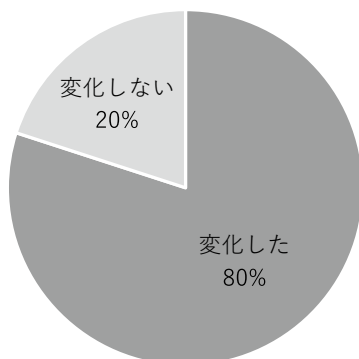


図 12 ニュージーランドに対する
イメージ

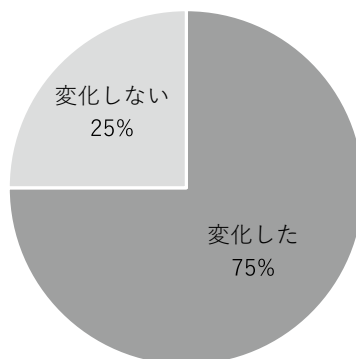


図 13 ニュージーランド社会に対
するイメージ

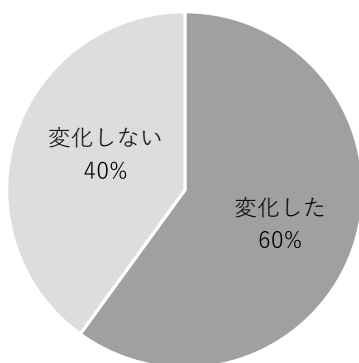


図 14 ニュージーランド文化に対
するイメージ

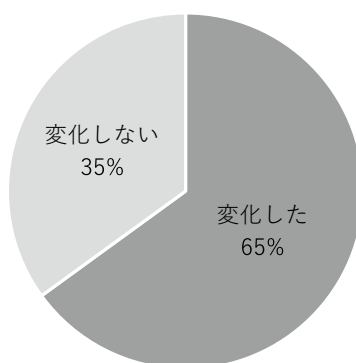


図 15 ニュージーランド人に対す
るイメージ

そして、帰国後、参加者に上述のそれぞれのイメージが変化したかを尋ねたところ、図 12～図 14 から分かるように、いずれの項目でも 3 分の 2 以上の参加者が「はい」と回答した。その具体的な回答の一部を挙げたのが表 2 である。

まず、国家としてのニュージーランドについては、出発前は旅行番組で報じられるようなイメージが主であったが、帰国後には「思ったよりも多文化・多民族国家」であった等、多様な人々が共存している国家であることを挙げた回答が最も多かった。ニュージーランド社会については、「プライベートの時間を大切にしている」、「社会の構成メンバーに民族的多様性がある」等の回答が寄せられた。文化については、「マオリ文化の尊重」が最も多かった。ニュージーランド人については、「優しい」と回答した参加者が最多であった。その理由としては、知らない人でも気軽に挨拶してくれる、困っていると助けてくれる、話しやすい等の説明が加えられており、多くの学生たちが現地の人々の温かい助けに支えられていたことが読み取れる。国家としてのニュージーランドと、その社会、文化、国民はもちろん相互に関

表2 【語学研修参加後】 ニュージーランドに対する認識

| 項目 | 人数 | 回答 | |
|------------|----|-----------|--|
| ニュージーランド | 4 | 人種・文化の多様性 | 思っていたよりも様々な国の文化が混合していた／どこの出身の人なのかはわからないがアジア系だろうなという人がかなり多かったのは発見だ。アジアに対する関心や理解力のある国だと実感できた／他 |
| | 2 | 国民性 | 日本とは違う人の目を気にしない大胆さがあり、話しかけたら笑顔で対応してくれる／思っていたより自由に暮らしている |
| ニュージーランド社会 | 3 | ライフスタイル | 多くの人が時間を大切にしており、日本よりも時間が遅く流れているような感覚だった／自己肯定感が高く人生を楽しんでいるように見えた／終業時間が早い |
| | 3 | 多様性 | 様々な国にルーツを持つ人々が暮らしている／自分が想像していたよりも多様性が認められている／他 |
| | 2 | インフラ | 想像以上にインフラがしっかりしている／他 |
| ニュージーランド文化 | 10 | マオリ | 皆マオリに対しては特別な敬意を持っており、グローバル化の中でもマオリ文化を保存するという強い意志を感じた／バスのアナウンスなど、マオリの文化が日常的／マオリのパフォーマンスやティキなどを知り、興味を持った／他 |
| | 3 | 多様性 | 1つの文化というよりはたくさんの文化に触れられたから／複数の文化がごった煮になっていた／他 |
| ニュージーランド人 | 5 | 優しい・親切 | 非常に穏やかで優しく、街中で困っていた時も通りがかった人が声をかけて助けてくれた／海外の人は少し怖いイメージがあったがニュージーランド人はとても優しくしてくれた／アジアに対する理解力があり温かった／他 |
| | 1 | 隣国との関係 | 同じオセアニアであるオーストラリアには絶対に負けられないというライバル意識はあるが、普段はとても仲が良いのは興味深かった。日本と隣国との関係とは異なる |

係しているものではあるが、回答者の中にはそれらの違いを明確に認識せず回答が重複しているものもあった。

語学研修参加後のニュージーランドに対する認識を参加前のものと比較すると、主に2つの指摘が可能である。まず、自国との大きな違いがその国の特徴として印象に残るということである。帰国後のアンケートでは、ニュージーランド、ニュージーランド社会、ニュージーランド人に対するイメージで、多様性やマオリに言及する回答の増加が見られた。語学研修の出発説明会や事前研修等でニュージーランドが多文化社会であるということやマオリ文化が尊重されていることは伝えられていたものの、出発前にそれらに関心を寄せていた学生はさほど多いとは言えなかった。しかし、オークランド滞在経験を通じて、複数の学生がニュージーランド社会やその文化の特徴として人種や文化の多様性を挙げるようになった。日本においては、全国でも外国人の割合が多いとされている東京でさえ、その割合は約4%に過ぎない²。そのような日本と比較すると、海外出身者が人口の42%を占めるオークランドの様子は³、参加者にとって大きな驚きであったことが想像できる。また、ニュージーランドにおけるマオリ文化の位置付けについても、先住民族のアイヌをはじめとするマイノリティーの権利への関心が薄い、場合によっては軽視される言動が罷り通っている日本において、例えばバス車内でのアナウンスが英語よりも先にマオリ語でなされる等マオリ文化を尊重する意思が感じられるニュージーランドの経験は、学生達の知見を広げるものであったことと思われる。2点目としては、ニュージーランド人に対する見方の変化が挙げられる。語

学研修前から、「優しい」、「温厚」というイメージはあったものの、同時に「マオリ」「白人」といった属性で他者を捉える視点も存在した。しかし、帰国後のアンケートではそのような視点は大幅に減少し、個人でニュージーランド人を捉える視点に変化したことがわかる。もちろん、参加者の行動範囲や英語でのコミュニケーション能力、それに伴う情報収集能力の限界等の影響はあるものの、語学研修を通じてニュージーランドに対する理解は広がり、また現地の人々に対しては同じ人間として型にはめない見方が可能になったことが伺える。

4-4 日本に対する認識の変化

最後に、ニュージーランドでの語学研修の経験が、日本に対する認識にどのような変化を与えたのかアンケート結果から確認する。帰国後のアンケートで日本に対する認識の変化を尋ねたところ、75%の参加者が日本に対する認識が変化したと回答した(図16)。以下で、どのように変化したのかを見ていく。

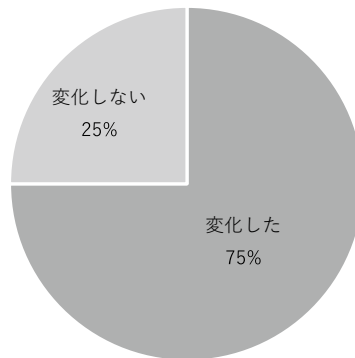


図 16 日本に対する認識

参加者が語学研修に参加する前の日本に対する認識は、表3で示される通り「治安がいい」、「四季がある」、「平和」、「独自の文化・伝統的な文化を持っている」といった全体的に肯定的もしくは中立的と解釈できるものであった。他方で、日本社会に対する認識については、今後改善が必要とされる問題を抱えた社会としての側面を取り上げたものが少なくない。解答した学生の半数以上が、「高齢化」、「経済の低迷」、「男性優位」等の問題点を取り上げた。他方、肯定的な認識を示したものとしては、「ルールを守る」、「治安がいい」などが挙げられた。日本文化の特徴については、「独自の文化・特殊」、「長い歴史を持っている」、「伝統がある」等の回答が寄せられた。意外なことに、アニメや漫画、ゲームといったサブカルチャーを挙げた学生は1名のみであった。日本人に対する認識としては「内向的・消極的」が最も多く、続いて「優しい・お人好し」、「礼儀正しい」であった。これらから、日本という国家やその文化、日本人に対しては肯定的に捉えている参加者が多数を占める一方で、日本社会に対してはやや否定的な見方が示されていたことがわかる。

表3 【語学研修参加前】日本に対する認識

| 項目 | 人数 | 回答 |
|------|----|--|
| 日本 | 4 | 安全／治安がよい |
| | 3 | 四季がある |
| | 2 | 平和 |
| | 2 | 歴史が長い／伝統的な行事がある |
| | 2 | 独特の文化を持ちつつ、他国の文化も取り入れている |
| | 2 | 独自の文化がある |
| | 2 | 島国 |
| | 2 | 自然に恵まれている |
| | 各1 | 生活ペースが早い／きれい／都市が発展している |
| 日本社会 | 4 | 少子高齢化 |
| | 3 | 規律がある／治安がよい |
| | 2 | 経済的に低迷 |
| | 2 | 男性優位 |
| | 2 | 女性の社会進出が進みつつある |
| | 各1 | 面倒／几帳面／歪／懐古主義／政治への関心が低い／堅実 |
| 日本文化 | 7 | 独自の文化がある |
| | 4 | 伝統がある |
| | 各1 | サブカルチャー／海外のものを独自に進化させるのに長けている／植物を使った文化が多い／和／豊か／閉鎖的 |
| 日本人 | 10 | 内向的／おとなしい／消極的 |
| | 6 | 優しい／お人好し |
| | 3 | 礼儀正しい |
| | 各1 | 面倒／慎重／丁寧／綺麗好き |

では、帰国後の日本に対する認識はどのように変化したのだろうか。学生の回答をまとめた表4からは、二つの傾向があることがわかる。1つ目は日本の良い点を改めて実感したものである。現地で日本のことを褒められる等の経験をし、日本はいい国であると実感したとの回答が見られた。2つ目は、日本の問題点を具体的に指摘するものである。その問題点も、さらに3つに分類される。1点目は日本における人間関係の堅苦しきや、それゆえの生きづらさを指摘するものである。これは、人の目を気にせず自由に暮らす一方で、困っている人には積極的に手を差し伸べる人々を目の当たりにしたことにより認識するようになったものと考えられる（表2）。2点目はライフスタイルである。ホストファミリーを含め現地の人々が自分の時間を大切にしながら人生を楽しんでいる様子から、自分の時間より仕事を優先する日本人の生き方に対しての問題提起が見られた。3点目は多様性の欠如である。先住民族や

表 4 【語学研修参加後】日本に対する認識

| 項目 | 参加学生のコメント（一部抜粋） | 評価 | 人数 |
|---------|--|--------|----|
| 社会 | LSI での経験から、日本はアジアの中でも特に先進国であるのだと、改めて実感しました。授業で男女平等についてディスカッションした際に、特に日本はその点では優れていると言っていて、改めて実感するきっかけとなりました。 | 日本の良い点 | 3 |
| 文化 | 出会った多くの人が日本の何かしらの文化に対してリスペクトを持っていた。日本には悪い側面もあるが、多くの魅力的な文化をもっていて世界中から愛されている国であると感じた。自分は日本のネガティブな部分しか見ていなかったが、ニュージーランド生活を経験して日本に対する考え方が変わった。 | | |
| 生活 | 家で生活から、日本の水を幾らでも使えるような環境が当たり前のことから、ありがたいことだと感じる。 | | |
| 人間関係 | LSI の学生やホストファミリーとの交流を通して、ニュージーランドと日本を比較してニュージーランドの人々は社交的でラフな雰囲気ということが分かりました。もっと日本でも社交的な雰囲気を取り入れると、柔軟な考え方が身につくのではないかと考えます。 | 日本の課題 | 4 |
| | 日本は気を遮う文化で、良いことがある反面、生きづらいと思った。／他 | | |
| ライフスタイル | 今までは今の日本人の生活スタイルが当たり前で考えたこともなかったが、日本人はもっと自分の時間を持つべきという視点を持つようになった。自分の時間を持ち、自分の趣味のためにお金を使うべきだと思った。ニュージーランドでは皆が仕事とは別に、自分の人生を楽しんでいた。日本は仕事で働きすぎて、帰宅してからの自分の時間を過ごすという余裕がない。／他 | | 3 |
| マイノリティ | ニュージーランドの先住民のマオリの人たちの象徴である刺青を誇りに思っていることが伝わってきた。日本では、刺青を入れている人は公共のお風呂に入れない。日本でも刺青を入れている人に対する恐怖心をなくすためのとりくみをしたほうがよいと考えられるようになった。 | | 2 |
| | ニュージーランドでは、特に性的マイノリティへの理解が強かった。日本では、変わってきているとは考えていたが、日本ではまだまだ理解されていないのだろうと思った。 | | |
| 多様性 | ニュージーランドには様々な人がいて、多くの言葉や文化があった。そのため、日本に戻ってから、日本語以外を話していたら浮いてしまう、というような点に疑問を持った。これまで特に気にしていなかったが、閉鎖的な国だと思うようになった。 | | 2 |
| | アジア系、ヨーロッパ系など多民族、多国籍国家のニュージーランドでの生活を経て、日本という国が多国籍人（ママ）の少ない鎖国国家なのだとわかった。 | | |

LGBTQ、移民等の権利を尊重しようとするニュージーランド社会で生活することにより、日本における多様性の欠如や閉鎖性を認識する学生も見られた。これは語学研修参加前に日本の多様性の欠如や排他性に言及していた学生がほぼいなかった（表 3）ことと比較すると大きな変化である。

5. まとめ

このように、2022 年度に実施した語学研修のアンケート調査は、語学研修が英語力の向上はもちろん、研修先の社会や文化への理解を深め、さらには日本に対する理解や問題意識をも深める効果があったことが伺える結果を示した。もちろん、参加者が接した現地の人々は限られており、またニュージーランドの一側面を垣間見たに過ぎないが、語学研修が自分たちの「当たり前」を問い直す契機になったことは、参加者が大学卒業後に社会の一員としてよりよい社会を築くためには特に重要な視点であると言える。今後はこのアンケート結果を通じて語学研修プログラムの効果の分析をより深めると同時に、プログラムを改善するために検討を積み重ねていきたい。

謝辞

語学研修の現地フィールドワークを担当するにあたり、事前授業を共に担当して下さった吉田司雄先生には多くのご助言をいただきました。また、グローバル事業部の皆様には語学研修の実施にあたり多方面でご協力をいただきました。ご助力を賜りありがとうございます。

注

- 1 平成 16 年度から 3 度にわたって実施されている日本学生支援機構における一連の調査（日本学生支援機構「海外留学経験者の追跡調査」）では、留学が語学や異文化理解において参加者に与える影響が指摘されている。他方、野水らによる研究（野水勉・新田巧「海外留学することの意義：平成 23・24 年度留学生交流支援制度（短期派遣・ショートビジット）追加アンケート調査分析結果から」『留学交流』第 40 号、2014 年、https://www.jasso.go.jp/ryugaku/related/kouryu/2014/_icsFiles/afieldfile/2021/02/18/201407nomizunitta.pdf）では、留学期間によってはその効果は限定的なものであるとも指摘されている。
- 2 「くらしと統計 2023 年」東京都統計局統計部
<https://www.toukei.metro.tokyo.lg.jp/kurasi/2023/ku23-29.htm>（閲覧日：2023 年 12 月 1 日）
- 3 Auckland Index. *Tātaki Auckland Unlimited*
<https://industry.aucklandnz.com/auckland-index/people>（閲覧日：2023 年 12 月 1 日）

参考文献

- 上村妙子「留学を通して学ぶ異文化コミュニケーション——英語学習と異文化理解の側面からの考察——」『専修人文論集』102 号、2018 年。
- 工学院大学「工学院大学留学プログラムガイド」https://www.kogakuin.ac.jp/about/action/fbb28u0000007nap-att/guide_202304.pdf（閲覧日：2023 年 12 月 1 日）
- 東京都統計局統計部「くらしと統計 2023 年」<https://www.toukei.metro.tokyo.lg.jp/kurasi/2023/ku23-29.htm>（閲覧日：2023 年 12 月 1 日）
- 日本学生支援機構「海外留学経験者の追跡調査」https://www.jasso.go.jp/statistics/ryugaku_abroad_tsuisei.html（閲覧日：2023 年 12 月 1 日）
- 野水勉・新田巧「海外留学することの意義：平成 23・24 年度留学生交流支援制度（短期派遣・ショートビジット）追加アンケート調査分析結果から」『留学交流』第 40 号、2014 年、https://www.jasso.go.jp/ryugaku/related/kouryu/2014/_icsFiles/afieldfile/2021/02/18/201407nomizunitta.pdf（閲覧日：2023 年 12 月 1 日）
- Auckland Index. *Tātaki Auckland Unlimited*. <https://industry.aucklandnz.com/auckland-index/people>（閲覧日：2023 年 12 月 1 日）

資料：アンケート項目一覧**【出発前実施アンケート】**

1. 海外渡航経験はありますか？
2. (1で「ある」と回答した人) 何を目的とした海外渡航でしたか？(複数回答可)
3. (1で「ある」と回答した人) どのくらいの期間の海外渡航でしたか？
4. (1で「ある」と回答した人) これまで滞在したことのある国を答えてください。
5. (1で「ない」と回答した人) これまで海外渡航しなかった理由を答えてください。
6. これまで、国際交流をしたことはありますか。
7. (5で「ある」と回答した人) 具体的にいつ、誰と、どのような交流をし、それに対してどのように思いましたか。
8. (5で「ない」と回答した人) これまで国際交流をしなかった理由を答えてください。
9. 本学の語学研修プログラムをいつ、どのように知りましたか？
10. ニュージーランド語学研修に参加した理由を可能な限り詳しく説明してください。
11. ニュージーランド語学研修に期待していることはありますか？
12. (11で「ある」と回答した人) 具体的にどのようなことを期待していますか。
13. (11で「ない」と回答した人) その理由を答えてください。
14. ニュージーランド語学研修に参加するにあたって不安に思っていることはありますか？
15. (14で「ある」と回答した人) 具体的にどのようなことに不安を感じていますか。
16. (14で「ない」と回答した人) その理由を答えてください。
17. ニュージーランド語学研修終了後、また海外渡航をしたいと考えていますか？
18. (17で「はい」と回答した人) どの国で何をしたいですか。具体的に説明してください。
19. (17で「いいえ」と回答した人) その理由を答えてください。
20. 今回のニュージーランド語学研修に参加するにあたって、これまでどのような準備をしましたか？ 現時点でしたことを挙げてください。
21. ニュージーランド語学研修について、先輩から体験談を聞いたり、アドバイスをもらったりしましたか。
22. (21で「はい」と回答した人) どのようなことを聞いたか(またはどのようなアドバイスをもらったか) 具体的に説明をしてください。
23. (21で「いいえ」と回答した人) その理由を答えてください。
24. ニュージーランドという国に対するイメージを思いつく限り挙げてください。
25. ニュージーランド社会に対するイメージを思いつく限り挙げてください。
26. ニュージーランド文化に対するイメージを思いつく限り挙げてください。
27. ニュージーランド人に対するイメージを思いつく限り挙げてください。
28. 主にどのような媒体から 24～27で回答した内容の情報を得ましたか。
29. 日本という国はどのような特徴を持っていると思いますか。

30. 日本社会はどのような特徴を持っていると思いますか。
31. 日本文化はどのような特徴を持っていると思いますか。
32. 日本人はどのような特徴を持っていると思いますか。
33. あなたの考える代表的な日本文化とは何ですか。
34. ニュージーランド滞在中に機会があれば紹介したい日本文化を挙げてください。
35. 最近、どのようなニュース（国内外問わない）に関心を持っていますか。
36. 35 のように考えた理由を答えてください。
37. 自分は海外に対して関心をどのくらい持っていると思いますか。10 段階で答えてください。
38. あなたがよいイメージを持っている国を 1 つ挙げてください。
39. 38. のように答えた理由を可能な限り具体的に説明してください。
40. あなたが悪いイメージを持っている国を 1 つ挙げてください。
41. 40. のように答えた理由を可能な限り具体的に説明してください。

【帰国後実施アンケート】

1. LSI での授業で、最も勉強になったことを具体的に説明してください。
2. LSI での授業で、最も困難を感じたことを具体的に説明してください。
3. ホームステイを経験し、最も面白い / 興味深いと思ったことを具体的に説明してください。
4. ホームステイを経験し、最も困難を感じたことを具体的に説明してください。
5. あなたは事前に立てた目標をどの程度達成できたと感じていますか？ 事前授業で記入した「NZ 語学研修 2022_事前授業_ワークシート」に書いた内容も確認しながら、回答してください。
6. 5 のように回答した理由を具体的に説明してください。
7. あなたは NZ 語学研修に参加し、どれだけ自分の英語力が伸びたと感じますか？ 事前に録音・録画した自己紹介も確認した上で、回答してください。
8. 7 のように回答した理由を具体的に説明してください。
9. 今回ニュージーランドに 3 週間あまり滞在したことで、この国に対するイメージは変化しましたか？
10. 9 のように回答した理由を具体的に説明してください。
11. 今回ニュージーランドに 3 週間あまり滞在したことで、ニュージーランド社会に対するイメージは変化しましたか？
12. 11 のように回答した理由を具体的に説明してください。
13. 今回ニュージーランドに 3 週間あまり滞在したことで、ニュージーランド文化に対するイメージは変化しましたか？

14. 13 のように回答した理由を具体的に説明してください。
15. 今回ニュージーランドに 3 週間あまり滞在したことで、ニュージーランド人に対するイメージは変化しましたか？
16. 15 のように回答した理由を具体的に説明してください。
17. 今回ニュージーランドに 3 週間あまり滞在したことで、日本に対する見方は変わりましたか？
18. 17 で「はい」と回答した人は、①ニュージーランドでのどのような経験から、②日本のどの部分に対する見方が、③どのように変わったのか、具体的に説明をしてください。
19. 17 で「いいえ」と回答した人は、その理由を具体的に説明してください。
20. 最近、どのようなニュース（国内外問わない）に関心を持っていますか。
21. 22 のように考えた理由を答えてください。
22. 自分は海外に対して関心をどのくらい持っていると思いますか。10 段階で答えてください。
23. あなたがよいイメージを持っている国を 1 つ挙げてください。
24. 23 のように答えた理由を可能な限り具体的に説明してください。
25. あなたが悪いイメージを持っている国を 1 つ挙げてください。
26. 25. のように答えた理由を可能な限り具体的に説明してください。

（やまだ ともみ 教育推進機構 国際キャリア科 准教授）